平成 28 年 11 月 30 日

**アンケート集計結果について（最終結果）**

編集委員会

編集委員会では、今後の学会誌の完全電子化や他学会との合同刊行について、会員の皆様を対象にアンケートを実施しました。本アンケートは、メーリングリストで会員の皆様に周知し（6 月 14 日）、web 回答をお願いしました。その後、メーリングリスト未登録の方々のために研究発表会（弘前市）においてアンケート用紙を配布すると共に学会誌（51-2）にアンケート用紙を入れ、回答をお願いしました。その結果、最終的に 104 件の回答が集まりましたので報告します。

**アンケート**

日本保健物理学会では、機関誌として「保健物理」を四半期ごとに発刊しています。編集委員会では会員の皆様にとって「保健物理」誌を魅力ある雑誌にするために様々な記事を企画し、また利便性と社会へのサービス向上を図るため、近年は機関誌に掲載された記事については掲載後速やかに J-Stage での無料公開を実施してきました。しかし、会員の皆様へ各種情報を発信していくうえで機関誌は欠かせない媒体です。一方、当学会の持続的な運営を考えると経費削減は不可欠であり、今後は学会誌を電子媒体発刊することも視野に入れています。なお会員向けの情報については、新 Newsletter として速やかなメール配信を実施しています。このような状況から、今回会員の皆様のご意見を把握することを目的として、以下のアンケートを実施させていただきます。下記の質問に対して、皆様のお考えをお聞かせください。

Q1 学会誌を電子版のみとして、冊子体の配布をなくす

A-1 賛成　　A-2 会費が下がれば賛成　　A-3 どちらでもよい　　A-4 冊子体は必要

Q2 学会誌を「学術誌」として研究に関する記事のみを掲載（論文・解説，J-Stage により即時公開）し、その他の会員向け情報（JtoW・話題・情報のページ）は学会ホームページに掲載し、更新情報を新 Newsletter で発信する

A-1 賛成　　A-2 どちらでもよい　　A-3 反対

Q3 近年、複数の学会で一つの研究論文掲載雑誌を編集・運営する事例が出てきました。今後、「保健物理」誌を他学会などと共同で刊行することをどう思いますか。

A-1 賛成　　A-2 どちらでもよい　　A-3 反対

Q4 Q3 で A-1 あるいは A-2 とお答えいただいた方のみに質問します。
共同刊行するなら、新しい「学術誌」は次のどれが望ましいですか？

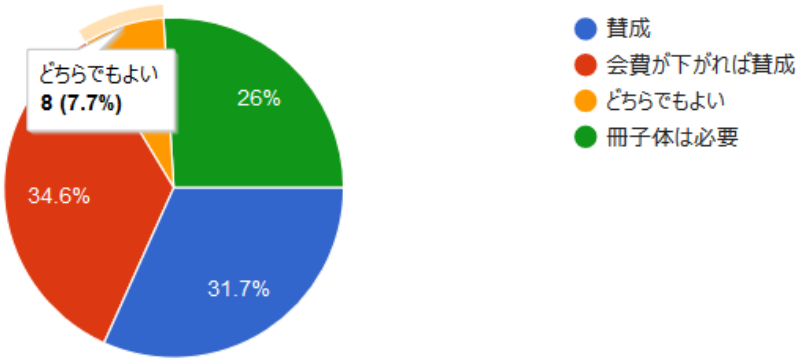
A-1 英文のみの学術誌　A-2 英文と和文のどちらも掲載する学術誌　A-3 どちらとも言えない

＜その他＞

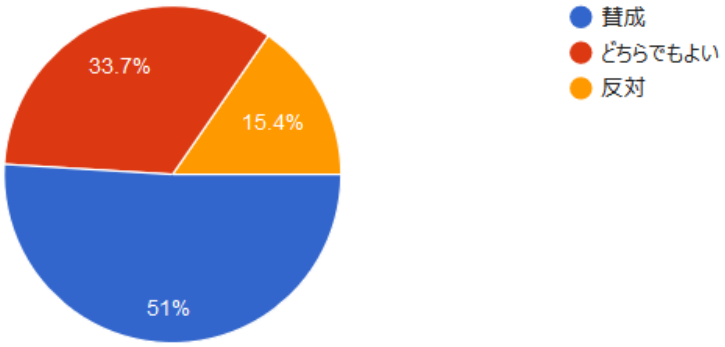
Q2 や Q4 の選択理由、「保健物理」や「編集委員会」へのご意見やご要望がありましたらご記入下さい

**アンケート集計結果**

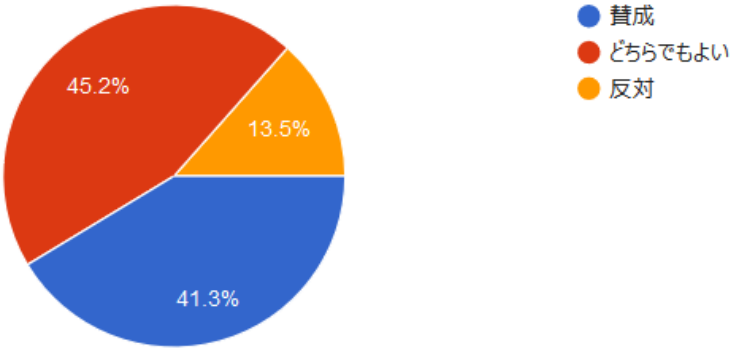
Q1 学会誌を電子版のみとして、冊子体の配布をなくす （104 件の回答）




Q2 学会誌を「学術誌」として研究に関する記事のみを掲載（論文・解説，J-Stageにより即時公開）し、その他の会員向け情報（JtoW・話題・情報のページ）は学会ホームページに掲載し、更新情報を新Newsletterで発信する。
（104 件の回答）

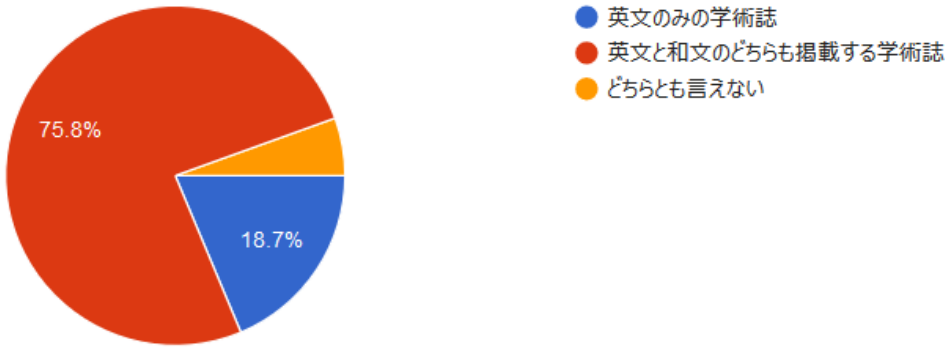



Q3 近年、複数の学会で一つの研究論文掲載雑誌を編集・運営する事例が出てきました。今後、「保健物理」誌を他学会などと共同で刊行することをどう思いますか。
（104 件の回答）



Q4　Q3でA-1あるいはA-2とお答えいただいた方のみに質問いたします。共同刊行するなら、新しい「学術誌」は次のどれが望ましいですか？

（91 件の回答）




＜その他＞

Q2 や Q4 の選択理由、「保健物理」や「編集委員会」へのご意見やご要望がありましたらご記入下さい。

1. 英文だけに限定すると投稿への敷居がたかくなり、ためらう人がでる。放射線防護の実践経験や意見等は日本語で書きたい人がおおいのではないでしょうか?
2. 日本地球化学会が英文誌と和文誌の両方を出しています。参考になるのでは？
3. 編集委員長は、「保健物理，50 (3)，　158 (2015)」において、IP 獲得方策の検討を行うとされていた。電子媒体のみの発刊としたり、共同刊行とした場合の IP 獲得への影響、会員数に与える影響について、編集委員会或いは理事会においてどのように考えられたのかを知りたい。
4. 先日の学会ウェブページの問題を考えると、ウェブ上のみで会員向け情報を掲載というのはリスクが大きいように思われますが、メーリングリスト（Newsletter）はいつも拝見し便利さを感じておりますので、併用ならとても良いように思います。
5. 日本保健物理学会が出版する学術誌としては、既存の他学術誌をあちこち探さないと見つからないような情報を紹介してくれるような Review 記事や、他の学術誌には載らないようなディープな話題などを多く載せて頂けると大変勉強になりますし、和文もあると学生や関係者にも気軽に紹介出来て良いのかなと思います。
6. 国内向け（たとえば規制当局などが参照することを想定した成果）の論文は、和文で作成したほうが利便性がよいという場合もあるので、Q4 では英文和文両方の掲載と回答した。
7. Radioisotope や日本放射線安全管理学会の雑誌との共同発行を検討するのはいかがでしょうか。また、電子版の公表時期をより早くすべきだと思います。
8. 積極的に海外に情報を提供したり、また海外からの投稿を受け付けられるように英文のみの学術誌にした方がいいと思います。
9. インパクトファクタ取得を目指すのであれば英文のみで、複数の学会での共同出版によってインパクトファクタの更なる向上が期待できるのであれば、良いと思う。しかし、インパクトファクタがない状態で英文のみにするメリットは、特にないように思う。
10. 日頃の学会誌の刊行に加えて、改善のためのご検討ありがとうございます。
11. 学会としては、論文を書かない多数を占める会員層を確保・維持しつつも、英語論文を積極的に書

いて学術的な貢献をする会員の増加を図るべきと考えます。前者も重要ですが、後者は、数は相対的に少なくても学会の基盤・骨格を構成する重要な要素で、これが細ると学会の体（てい）が維持できなくなると思います。そのような会員層を確保して投稿を促すためには、労力をかけた論文を投稿してもよいと考えられる、インパクトファクタがありサーキュレーションがより良い論文誌を目指すのがよいと考えます。その方策として、近い分野の学会と共同で編集・刊行することに賛成で、積極的にすすめていただきたいと思います。また、そのためにも英語論文と他の部分を分離するのも良策と思います。他学会との協力については、小異にとらわれず大義基づく大胆な考え方があってもよいと考えます。

12. Q3 に A-1 や A-2 という選択肢がありませんが、おそらく賛成、どちらでもよいの意味であると理解いたしました。
13. 紙媒体の方が「自分が見たい」もの以外が目に入るチャンスが多く、視野が広がる可能性がある。電子媒体は検索には向くがパラパラ読みはできない。
14. 会員向け情報がホームページ上に掲載されるのはもはや「当たり前」で、わざわざホームページを見にいかない会員へのアプローチ方法を残すことが必要と考える。
15. 新規の共同刊行学術誌を作るのであれば掲載論文は最初から海外発信を考慮しておくべきだろう。海外発信の必要のない国内会員向け情報は日本語で併載。
16. 会誌で、あるテーマを取り上げ、初級者または一般向け（研究者、技術者でもいい）の総説や特集号を組み、それらを別途冊子体にして学会やシンポジウム等で販売して収益を上げるようなことを考えてはいかがでしょうか。実際に別の学会ではやっていると思います。
17. 放射線防護は実務が重視される学問分野のはず。「学術論文」だけで構成されていいのか疑問。学者、研究者に偏り、「実学」から遠ざかるのがいいのか？
18. 他学会との共同刊行はどの学会と共同するか、管理学会、影響学会、原子力学会・・・？
19. 特にありません
20. ウェブ上の電子情報は保存性に難があります。いつの間にかアクセスできなくなる（裏を返せば、永久にサーバーの運営管理が必要になる）、後からの改変が可能だからです。ウェブ上だけにすると、別途理事会議事録等を安定して保管、閲覧できるようにする努力も必要になります。冊子体は学会事務局で保管するもの、国会図書館に納めるものを最低限作る必要があると思います。学会員への配布は、希望者のみ学会年会費に加えて冊子体配布料金を頂くようにしたらいかがでしょうか。
21. Q4 の選択肢にないのですが、英文誌を和文誌の両方を共同刊行すべきだと思います。ヒトと他生物の生活環境をどう調和させ、安心して共存できる地球環境つくりの視点を中心にすえた学会誌を関連学会が共同して作れたら素晴らしいです。
22. インパクトファクタがほしい
23. 以前より、会費等の振込用紙を学会誌の間に挟まないでほしいとお願いしています。紛失やお支払いの遅れ等になることがあります。挟まずに、送付状につけるか、挟むのなら、読者が気付くように目印をつけるとか、細かな配慮をお願いしたい。
24. 学会誌の J-Stage により即時公開に期待しています。
25. 昔のように、原子力反対側の意見や、各業界の意見、原発や除染業務従事者へ参考となるようなものをどしどし掲載してください。最近、閉鎖的になっていませんか？
26. 放射線防護分野の論文誌（英文）は既にたくさんあるので、保健物理誌については、日本語の総説や解説記事が充実している、会員にとって読みやすく見聞を広めるのに役に立つ書物であってほしいと思います。

27.Q2:学術誌とした場合、一定の記事数（ページ数）が確保できるか。Q4:実学の色が濃い保健物理においては、広く読まれやすいであろう和文も掲載可とした方が、より存在価値が高まるのでは。Q1: 冊子体はすぐリサイクルにまわしてしまうが、電子ファイルであれば保存しやすく、後で参照しやすいので、電子化に賛成。会費が下がるのであれば、なおよし。
28.発行サイクルは短い方がよい。 査読を含めて学生の卒業に余裕あるスケジュールとしてほしい。
29.近年の活発な活動を評価しています。
30.冊子ではカラーページの制約がありますので、Web での掲載を望みます。
31.学術誌（英文のみ）と会員向け情報（webのみ日本語）に分ける方がいいと思います。 日本放射線連合のようなものが考えられると思います。
32.冊子に研究に関する記事のみを 掲載すると内容が固くなり読みづらい。学会のトピック等も冊子に掲載してほしい。

**集計詳細**

正会員 605 名
正学生会員 11 名
準学生会員 17 名
名誉会員 8 名
特別会員 50 名
合計 691 名
メール登録 572 名

回答数：104
回答率：15.1%

**まとめ**

ご回答いただいた会員の皆様の 6 割以上は学会誌の完全電子化には好意的な意見を持っていると言えます。その場合、論文・解説など学術記事だけを掲載し、会員向け情報はメーリングリストでも良いとの意見が多くありました。更に、他団体との共同発刊についても、”どちらでも良い”を含めるとほとんどが賛成意見であり、その際は、和文と英文の混合での掲載を希望していることが分かりました。現在、編集委員会では、冊子体での発刊後、速やかな J-Stage 公開を進めています。今後は、冊子体とほぼ同時に J-Stage 公開ができるよう準備を進め、電子版で速やかに読んでもらえる環境を作り、今以上に会員の皆様に学会誌の電子化について理解していただきたいと考えております。また、他学会との合同刊行についても検討を進めていく予定です。